

これから行うべき がん対策について

寄附講座「地域がん疫学講座」が、科学的根拠に基づき、がん登録データを研究・分析した結果、青森県の現状と問題点が次のとおり明らかになりました。

<がん罹患等の現状>

- ・全部位で見ると、がん年齢調整罹患率は、全国推計値と比較してほぼ同じであるが、がん年齢調整死亡率は、全国で最も高い。
- また、限局の段階で診断される者の割合は、全国より低く、早期に発見されるがんが少ない。
- ・がん死亡の半数以上が、科学的根拠に基づき実施されているがん検診（胃・大腸・肺・乳・子宮）の対象部位である。

<がん検診の問題点>

- ・がん検診の受診率は全国平均より高いものの、死亡率の改善に効果がある水準ではなく、また、早期診断に結びついていない可能性がある。
- ・市町村は、がん検診が正しく実施できているか、評価、検討ができていない。

このようなことから、がん検診受診を早期診断に結びつけるため、下記の事項について最優先に取り組むよう提言します。

記

- がん検診を正しく効果的に運用すること。
 - ・市町村は、まず、要精密検査となった者を確実に追跡すること。
 - ・県及び青森県生活習慣病検診管理指導協議会は、市町村のがん検診に積極的に介入して、がん検診の実施状況を明らかにすること。

平成28年3月22日

弘前大学大学院医学研究科
寄附講座「地域がん疫学講座」

申路重之

青森県知事

三村申吾 殿

提言書

～これから行うべき がん対策～

弘前大学大学院医学研究科
寄附講座「地域がん疫学講座」